

心がけたい事

今から7・8年前、新聞の社説で「我が意を得たり」と思う記事に出会いました。その記事は、江戸時代中期の儒学者荻生徂徠に関する逸話と為政者の心得です。手帳に貼り、今でも時々目にしています。徂徠は赤穂浪士討ち入りの際、その後始末に困り果てた為政者柳沢吉保に対し、政治顧問として「私論を以て公論を害せば、此以後天下の法は立つべからず」と助言し、事態を収束させたと伝えられています。

荻生徂徠が残したとされる為政者の心得として知られているのが「徂徠訓」と呼ばれる教えです。

- 1 人の長所を初めより知らんと求むべからず、人を用いて初めて長所の現はるるものなり。
- 2 人はその長所のみを取らば即ち可なり。短所を知るを要せず。
- 3 己が好みに合う者のみを用うるなかれ。
- 4 小過を咎むる要なし。ただ事を大切になさば可なり。
- 5 用うる上は信頼し、そのことを十分にゆだねるべし。
- 6 上にある者、下にある者と才知を争う事なかれ。
- 7 人材は必ず一癖あるものと知るべし。ただし、その癖は器材なるがゆえに、癖を捨ててからず。
- 8 かくして、上手に人を用うれば事に適し、時に応ずる人物、必ずこれにあり。
- 9 小事を気にせず、流れる雲のごとし。

社会には多くの組織があり、その組織を構成しているのが様々な性格や考えを持つ人間です。違いがあるのは当然です。そこでは「おたがいさま」「おかげさま」の気持ちをもって互いに接することができれば、組織はスムーズに動くのかもしれませんが。しかし現実はなかなか難しいです。私自身いつも大らかな気持ちで人と接したいと思っているのですが。

この「徂徠訓」を常に心がけ、忘れず、自分自身を戒めながら学校のリーダーとして頑張りたいと考えています。「小事を気にせず、流れる雲のごとし」の心境を大切にしたいと考える毎日です。